



「関西学院のヴォーリズ建築」展を振り返って

関西学院大学博物館学芸員特別准教授 倉田 麻里絵

大学博物館開館10周年記念として関西学院のヴォーリズ建築を総覧する企画展「天を見あげて—関西学院のヴォーリズ建築—」（2024年9月28日～12月14日）を開催した。ウィリアム・メレル・ヴォーリズは学院創立の地である原田の森時代から校舎などを手がけ、学院が移転した上ケ原においてはキャンパス全体の設計を担った。学院の発展とともにあったヴォーリズ建築の詳細を振り返る本展では、原田の森、上ケ原両キャンパスに建てられたヴォーリズ建築の図面とその外観、内観写真のほか、ドアノブや階段の手すりなど実際に使われた建物の一部も展示し、校舎やヴォーリズにまつわるエピソードを添えた。展覧会の内容を記録した図録は現在博物館内で販売中である。本稿では今回の調査で印象的であったことを2つご紹介したい。

関西学院のヴォーリズ建築リストとマップ

学院の創立時から現在に至るまでに建てられた全建築物の情報を網羅した資料は残念ながらない。そのため展覧会の準備は学院のヴォーリズ建築リストを作成することからはじまった。ヴォーリズ建築事務所による図面と竣工した建物写真をもってヴォーリズ建築と断定することを基本としたが、契約についての記録や学報などから判断したものもある。

調査が難航したのは1950年代の建物である。学生数の増加に伴い教室棟などを急いで建設していた時期であり、ヴォーリズ建築事務所が監理のみを担う建物（非ヴォーリズ建築）も見られる。今回は実施設計がヴォーリズの事務所という確証が得られずリストから外したのもあったため、今後のさらなる調査研究で新たなヴォーリズ建築が見つかることがあるかもしれない。

このような調査結果に加え、展覧会では建築図面に書かれたサインから所員を特定しご紹介した。その氏名をきっかけに所員のご遺族がご来館くださるという嬉しい出来事もあった。

1929年3月に学院の校地は原田の森から上ケ原へ移るが、この時点でヴォーリズによる上ケ原キャンパスの設計がすべて完成していたわけではない。移転後も増築という形で工事が進められた。本展では「上ケ原キャンパスに現存するヴォーリズ建築マップ」を作成し、1929年に竣工した部分とヴォーリズ建築事務所による増築部分を色分け

して示した。なかには他社が増築を手がけた建物もあり、それらを明らかにできたことも本展の意義につながったと思う。図録所収のマップを手に建物を巡ると増築箇所がよくわかる。ぜひ移転当初の学院の姿に思いを馳せてみてほしい。

建物に施された美しい装飾

マップ作成と同時に現存する建物から失われた装飾や照明灯具などを特定する作業もおこなった。時代を追うごとに変化した箇所もあるが、1942年の金属供出によってさまざまな装飾が失われていることを改めて確認した。上ケ原キャンパスを象徴する建物である時計台（旧図書館）を例にとると、建物正面の外壁にあった飾り手すりとして1階ロビーの階段手すりに施されたアイアンワーク（金属製の装飾）が取り外されている。本展では、これまでに復元されていない階段手すりの装飾の模型制作を建築学部ヴォーリズ研究センターに依頼し、実際に模型を階段に設置して公開した（本誌第58号p.3参照）。模型によって初めて立体的に見る竣工当時の姿は想像以上に美しく、それと同時にまた失われるようなことを繰り返してはいけないという思いが強まった。大学博物館は模型公開とともに寄付金を募り、铸造での装飾復元を目指している。復元によって来館者と平和への思いを共有したい。

大学博物館は時計台のなかにある。建築についての展覧会を、その対象となる建物内で開催できることのありがたさを噛みしめた調査であった。



時計台の階段に施されたアイアンワーク 1936年
(学院史編纂室所蔵「高等商業学部第22回卒業記念アルバム」より)

寄付金募集の詳細



本展開催にあたり、関係者の皆さまにご協力を賜りました。ここに記して深く感謝いたします。

(くらた まりえ)